

登録コード:MH117200		開講年度:2026		市民開放授業	授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	成人看護健康論（内科学）【20M以降】 Health Sciences in Adult Nursing I						
担当教員	伊澤 淳						
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/ 2 学年 前期 月曜・ 4 時限 月曜・ 5 時限						
単位数、講義室	2 単位		多目的講義室			遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			授業の達成目標			
	MH20カリ・保健						
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。			健康障害の原因となる主な疾患について、内科学を中心とした最新の臨床医学による診断、治療、予防等を学修し、病者を全人的に理解して健康支援の方策を立案することができる。			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。			健康障害の原因となる主な疾患について、内科学を中心とした臨床医学の科学的根拠に基づいて、それぞれの病態、診断および予防と治療を理解し、症状や障害等の健康課題の解決に向けた看護実践の進め方について理解することができる。			
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護						
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。			健康障害の原因となる主な疾患の病態、診断、予防・治療について、内科学を中心とした最新の臨床医学に基づく基礎的・専門的な知識を修得し、看護実践における健康支援の方策を立案することができる。			
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。			健康障害の原因となる多様な病態に対して、内科学を中心とした臨床医学の科学的根拠に基づいた診断および予防と治療を理解し、症状や障害等の健康課題の解決に向けた看護実践に取り組む力が身についている。			
授業で学べる「テーマ」	健康長寿						
全学横断特別教育プログラム							
授業概要	本授業では、1 年次の人体の構造と機能 III（症候学）で学修した健康障害による症状や徴候に関する知識に基づいて、症候の主な原因となる疾患を学びます。内科学が扱う主な疾患（神経内科領域を除く）について、病態生理、診断と治療、予防や指導を学びます。 主な疾患による身体的症状と健康障害の全身的な病態に基づいて、病者として全人的に理解することを学びます。 内科学が扱う広い領域における看護実践の対象を理解し、共通理解に基づいた専門職連携による医療の展開に役立つ基礎知識を修得します。 本授業は、担当教員の総合内科専門医としての実務経験を活かして講義を行います。2 年次後期の科目「成人看護方法論 I」と「成人看護健康論 II（外科学）」の学修の基盤となり、2 年次以降の臨床実習における重要な基礎知識となります。						
授業計画	第 1 回（4 月 13 日）循環器疾患 1 循環と血圧 第 2 回（4 月 13 日）循環器疾患 2 心不全、弁膜症 第 3 回（4 月 20 日）循環器疾患 3 動脈硬化・虚血性心疾患 第 4 回（4 月 20 日）循環器疾患 4 心筋症，心筋炎，静脈血栓塞栓症 第 5 回（4 月 27 日）循環器疾患 5 心電図・不整脈 第 6 回（4 月 27 日）呼吸器疾患総論 第 7 回（5 月 1 日[金]）呼吸器疾患各論 1 第 8 回（5 月 1 日[金]）呼吸器疾患各論 2 第 9 回（5 月 11 日）消化管疾患総論 第 10 回（5 月 11 日）消化管疾患各論 1 第 11 回（5 月 18 日）消化管疾患各論 2 第 12 回（5 月 18 日）肝・胆・膵疾患総論 第 13 回（5 月 25 日）肝・胆・膵疾患各論 1 第 14 回（5 月 25 日）肝・胆・膵疾患各論 2 第 15 回（6 月 1 日）中間試験 第 16 回（6 月 1 日）内分泌疾患総論 第 17 回（6 月 8 日）内分泌疾患各論 第 18 回（6 月 8 日）代謝・栄養疾患総論 第 19 回（6 月 15 日）代謝・栄養疾患各論 第 20 回（6 月 15 日）感染症総論 第 21 回（6 月 22 日）感染症各論 1 第 22 回（6 月 22 日）感染症各論 2 第 23 回（6 月 29 日）血液・造血器疾患総論 第 24 回（6 月 29 日）血液・造血器疾患各論 1 第 25 回（7 月 6 日）血液・造血器疾患各論 2 第 26 回（7 月 6 日）腎・泌尿器疾患総論 第 27 回（7 月 13 日）腎・泌尿器疾患各論 1 第 28 回（7 月 13 日）腎・泌尿器疾患各論 2 第 29 回（7 月 27 日）アレルギー・膠原病総論 第 30 回（7 月 27 日）膠原病各論；授業アンケート						

授業計画	第31回（8月 3日）期末試験 第32回（8月 3日）期末試験
授業の進め方	本授業のテキスト（下記）と授業のスライド（資料）を用いて進めます。資料で空欄となっている重要事項を授業中に記入します。また、資料の重要なページは"ポイントマーク"で示されています。 授業の資料はeALPSに掲載しますので、事前にダウンロードしておき、当日はWifiを利用しない方法を勧めます（情報の送信が集中するとWifiが繋がりにくくなります）。 各授業の予習と復習ができるように進めます。第2回以降は、前回の授業で提示された課題を事前にeALPSで提出し、授業の最初の5分間で前回の授業内容と関連する問題に取り組みます。 内科領域の主な疾患による健康障害は、臓器別の理解だけではなく、全身器官の相互の機能連関の理解が大切であり、その学修ができるように授業を進めます。 授業中には既出の学修内容について質問します。積極的な発言と質問を歓迎します。
テキスト、教材、参考書	（テキスト） なるほどなっとく！内科学 改訂第3版：浅野嘉延 編 南山堂 （参考図書） ナースング・グラフィカ 成人看護学 健康危機状況／セルフケアの再獲得 改訂第2版 メディカ出版 NICE成人看護学 成人看護技術 改訂第3版 南江堂 わかりやすい内科学 第5版：井村裕夫他 編 文光堂
成績評価の方法	成績評価は、中間試験（6月1日）、期末試験（8月3日）、予習課題のミニレポートで評価します。 【配点】中間試験が 50点、期末試験が 50点で、合計 100点。 予習課題のミニレポートは提出を原則とし、未提出は-1点とします。 試験は、講義で扱った全ての疾患を対象とした筆記試験です。疾患の病態生理、疫学や危険因子等の背景、臨床検査法、予後、診断、治療、予防法および指導法の概要について、理解度と到達レベルを評価します。期末試験の試験範囲は、中間試験以降の範囲です。国家試験形式の選択問題を中心として、記述問題を含むことがあります。
成績評価の基準	最終評価は、中間試験と期末試験を合計して100点を満点とし、60点以上を合格とします。 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可。 評価の基準は上記の通りですが、その目安は、国家試験レベルの問題が正答できれば「水準にある（可）」、授業でキーポイントとした重要事項が正答できれば「やや上にある（良）」、授業で扱った詳細事項が正答できれば「かなり上にある（優）」、正答率が卓越している場合は「卓越している（秀）」です。
事前事後学習の内容	1. 事前学習について 毎回の授業の終わりに次回までに予習する事前課題を説明します。2回目以降のeALPSに課題を毎回設定しますので、予習した内容をミニレポートとしてeALPSから提出してください（60分の自己学習として取り組んだ内容としており、書式、字数等は定めていません）。 2. 事後学習について 授業の始めに、前回の授業内容に関連する問題を提示しますので、復習をして授業に臨んで下さい。 事前学習と事後学習には、eALPSに掲載する授業資料が参考になります。授業の当日、必要な方に資料を配布しますが、印刷には限界があるので、各自で事前に印刷をお勧めします。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間（2時間×30回）+ 自己学習時間30時間（1時間×30回）= 90時間。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	看護実践の基盤となる内科学の基礎知識を学修するため、予習と復習を効果的に活用しましょう。 質問や相談は、授業の前後あるいは以下のように対応します。 質問への対応：伊澤 淳 izawa611@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：金曜 16 - 17時 伊澤研究室（保健学科中校舎4階）での対面による質問や相談を希望する方は、日程調整のため事前にメール（izawa611@shinshu-u.ac.jp）で可能な日時を複数提示してください。